

# 介護実習の内容及び特徴

## I 介護実習の基本的な考え方

介護福祉士とは、「介護福祉士の名を用いて、専門的な知識および技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者をいう」と社会福祉士及び介護福祉士法（平成19年12月5日法律第125号）に規定されている。

介護保険制度の施行等に伴い、従来の施設入所型の介護サービスから、利用者の生活の場である地域での介護サービスへの転換が進められ、また、従来の介護施設においても、ユニットケアなどの個々の生活リズムを尊重した個別ケアの普及が進んでいる。さらに、認知症等の介護ニーズによりきめ細かな対応が可能な介護サービスとして、小規模多機能型居宅介護等の新しいサービスが創設されている。これからの社会においては、障害の有無や年齢に関わらず、個人が尊厳をもった暮らしを確保することが重要であり、介護サービスにおいては、利用者一人ひとりの個性や生活のリズムを尊重した介護（個別ケア）の実践が必要とされている。

この「利用者一人ひとりの個性や生活のリズムを尊重した介護」を実践するためには、介護実習を通し、以下の2点を学ばなければならない。

- (1) 様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じた、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。
- (2) 利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

学内での学びと介護実習の学びを統合することによって、はじめて介護福祉を実践する能力を身につけることが可能となる。

## II 介護実習の目標

1. 社会福祉の精神を基盤に、利用者の人権尊重、QOLの向上を念頭に実習を行い、自己の倫理観を養う。
2. 講義・演習・学内実習で学んだ知識・理論に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護需要に関する理解力、判断力を養う。
3. 日常生活援助に関する介護技術能力を深めると同時に、介護に役立つ種々の住生活設備機器や福祉用具の知識を学び、その活用能力を養い、介護活動において駆使する能力を身につける。
4. 指導者の指導を受けながら介護計画立案方法や記録の仕方について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。
5. 施設介護実習では、施設の運営や在宅介護との連携ならびに通所サービスにも参加し、要介護老人、障害者等と幅広い介護利用者との関わりをもち、現場における体験学習を豊富にして、サービス提供全般における介護の職務の理解を深める。

## III 介護実習計画

### 1. 実習の区分・日数・時間数

介護福祉士の国家資格を目指す学生は、厚生労働省の指定科目である介護実習（450時間）を履修する必要がある。資格にふさわしい実力を備えることができるように、実習は講義、演習、および学内実習で学んだ知識、技術、態度が効果的に実践できるように、下記の実習段階別配分とする。

配分		区分	配属実習日数・時間		単位数
介護実習	第1段階 (1年次後期)	実習施設・事業等(Ⅱ)	10日	80時間	10単位 (450時間)
	体験実習1 (1年次後期)	実習施設・事業等(Ⅰ)	4日	32時間	
	体験実習2 (1年次後期)	実習施設・事業等(Ⅰ)	4日	32時間	
	第2段階 (2年次前期)	実習施設・事業等(Ⅱ)	15日	120時間	
	第3段階 (2年次後期)	実習施設・事業等(Ⅱ)	20日	160時間	
	体験実習3 (2年次後期)	実習施設・事業等(Ⅰ)	4日	32時間	

## 2. 実習施設・事業所等の区分

### (1) 【実習施設・事業等(Ⅰ)】

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。

訪問介護、通所介護、老人保健施設、身体障害者療護施設、重症心身障害児施設、知的障害者更生施設、ケアハウス、小規模多機能型施設、グループホーム、など

### (2) 【実習施設・事業等(Ⅱ)】

一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置く。

特別養護老人ホーム、老人保健施設、など

なお、第1段階実習は日勤のみ、第2段階施設実習は日勤と早出・遅出・休日勤務を含む変則勤務実習、第3段階施設実習は日勤と早出・遅出・夜勤(1回)・休日勤務を含む変則勤務実習とする。

# 介護実習第1段階

## 実習施設・事業等（Ⅱ）

### 1. 実習目的

- (1) 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解する。また、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。
- (2) 利用者と人間的触れ合いを通じて利用者の介護ニーズと介護の機能並びに施設職員の役割について学ぶ。

### 2. 実習目標

- さまざまな介護の対象と介護の需要状況について理解する。
- (1) 福祉施設の概要を学ぶ。
  - (2) 職員と共に介護活動を行い、介護の機能の実際について学ぶ。
  - (3) 施設職員の構成と業務・内容及び介護者の役割について学ぶ。

### 3. 学習内容および学習方法

目標	学習内容	学習方法
さまざまな介護の対象と介護の需要状況について理解する	利用者の生活の様子から、生活環境としての施設について考える。	①利用者の日課にかかわり、利用者にとって生活しやすい環境とはどのようなものなのかを考える。 ②利用者の居宅環境について知る。 ・居住環境の整備 ・プライバシー空間の設営 ・衣類・寝具の衛生管理と掃除 ・寝床の整備
	利用者の心理面や社会面の特徴を知る。	①利用者の性格特性 ②利用者が日ごろ大切に思っていること、宗教など ③趣味や楽しみになっていること ④利用者の家族との関係 ⑤他の入居者との関係 ⑥行事への参加のしかた ⑦施設の生活についての思い ⑧利用者が現在望んでいること
	利用者の生活習慣や生活動作の特徴を知る。	①どのように食事や排泄、身体の清潔や休息がされているかを知る。 ②日常生活動作を細かく観察する。(移動動作、着脱動作、排泄動作、入浴動作、食事動作、整容動作)
	利用者の記録を見て心理的・社会的・身体的な特徴を知る。	①年齢、入所日、入所理由 ②入所までの生活歴(出生地、教育歴、職業歴、経済状態、家族関係) ③入所から現在までの経過 ④障害の状態、既往歴と治療状況、バイタルサイン

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">福祉施設の概要を学ぶ</p>	<p>実習施設の概要を理解する。</p>	<p>①施設の沿革、設立年月日、設置主体 ②運営方針 ③施設長名、実習指導者名 ④職員構成（ケアワーカー数、介護福祉士数、生活指導員数、看護師数、栄養士数、調理員数、作業・理学療法士数、医師数、事務員数・・・） ⑤利用者の特徴（年齢構成、性別、入所理由、入所期間、社会的背景、障害の種類・・・） ⑥建物の構造（居室、食堂、浴室、便所、医務室、事務室、更衣室、非常口、実習生の控え室等） ⑦介護の方針、日課、週間・年間スケジュール、勤務形態、ケースカンファレンスや介護職員研修など</p>
	<p>介護老人福祉施設について理解する。</p> <p>実習施設の地域特性を理解する。</p>	<p>①介護老人福祉施設の設置についての法的な根拠を調べる。（設備・職員・利用者の特徴）施設利用に至までの手続きや利用者の費用負担等を調べる。日本における介護老人福祉施設の利用状況（利用者数・平均年齢・利用者の特徴等）や問題点および今後の動向について理解を深める。 ②施設見学を通して、様々な福祉施設の特徴や利用者の特性を理解し見学レポートをまとめる。 ③日本における介護老人福祉施設の利用状況（利用者数・平均年齢・利用者の特徴等）や問題点及び今後の動向について理解を深める。 ④施設見学を通して、様々な福祉施設の特徴や利用者の特性を理解し、見学レポートをまとめる。</p> <p>①実習施設の所在地を知り、地域特性（人口構成、高齢化率、地理、産業等）を調べ、施設周辺の環境を理解する。 ②地図や時刻表を用いて、交通機関を調べる。 ③上記の作業から、実習中の自分の通学手段を決める。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">職員と共に介護活動を行い、介護の機能の実際について学ぶ</p>	<p>介護職員（ケアワーカー他）とともに日常生活援助を体験する。</p> <p>1.身体的生活援助 2.文化的生活援助 3.社会的生活援助 4.生活環境整備/生活経営・管理 5.健康観察・保持 6.相談・助言 7.応急処置／終末期ケア 8.管理・運営</p>	<p>①施設の日課に添った介護職員（ケアワーカー他）の日常生活援助を通し、できるところは積極的に申し出て経験させてもらう。 ・特に利用者を移動するときは、安全確保のため必ず介護職員（ケアワーカー他）と共に行う。 ②体験の後には、指導者から助言を受け、自分の援助過程を分析して改善点を見出し、「実習日誌」に記録する。実習日誌は実習指導者に提出する。</p> <p>★以下の諸点を意識して、施設の職員とかかわる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初日は自己紹介のために、実習目標や自分の課題の要点をまとめ、言葉で表現できるようにしておく。</li> <li>・質問されたときには、相手の目を見てすぐに返答する。答えられないならば、その理由をはっきり述べる。</li> <li>・質問があれば、その場の状況を考慮し相手の都合を伺う。質問の用件は手短かに述べる。積極的に質問し、わかったことは復唱して相手の人に返す。</li> <li>・感謝の気持は、必ず言葉と表情で表現する。</li> <li>・明るい表情で、わかりやすい表現を用いる。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">施設職員の構成と業務内容及び役割について学ぶ</p>	<p>施設職員の役割や連携の状況を学習する。</p>	<p>①利用者のケアについてどのような検討がなされているかを考える。          ②職員がどのような役割をしているかを考える。          ③施設の厨房を見学し、栄養士や調理師の業務を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・献立作成、調理、盛り付け、配膳、残食の観察、後片付けまでの一連の過程を見学する。</li> <li>・一般食、きざみ食、ミキサー食、治療食などの食事の種類を見学し、利用者の特性に合わせる必要性を理解する。</li> <li>・摂取量の記録の仕方を見学し、栄養士とケアワーカーの連携の仕方を学ぶ。</li> </ul>
---	----------------------------	--

# 体験実習 1

## 実習施設・事業等（I）

### 1. 実習目的

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解する。

### 2. 実習目標

- (1) 様々な対象者への介護に関する理解を深める。
- (2) 様々な生活の場について理解する

### 3. 学習内容および学習方法

目	学習内容	学習方法
様々な対象者への介護に関する理解を深める	利用者の心理面や社会面の特徴を知る。	①利用者の性格特性 ②利用者が日頃大切に思っていること、宗教など ③趣味や楽しみになっていること ④利用者の家族との関係 ⑤他の入居者との関係 ⑥行事への参加のしかた ⑦施設の生活についての思い ⑧利用者が現在望んでいること
	利用者の生活習慣や生活動作の特徴を知る。	①どのように食事や排泄、身体の清潔や休息がされているかを知る。 ②日常生活動作を細かく観察する（移動動作、着脱動作、排泄動作、入浴動作、食事動作、整容動作）。
	利用者の記録を見て心理的・社会的・身体的な特徴を知る。	①年齢、入所日、入所理由 ②入所までの生活歴（出生地、教育歴、職業歴、経済状態、家族関係） ③入所から現在までの経過 ④障害の状態、既往歴と治療状況、バイタルサイン
様々な生活の場について理解する	実習施設の概要を理解する。	①施設の沿革、設立年月日、設置主体 ②運営方針 ③施設長名、実習指導者名 ④職員構成 ⑤利用者の特徴（年齢構成、性別、入所理由、入所期間、社会的背景、障害の種類・・・） ⑥建物の構造（居室、食堂、浴室、便所、医務室、事務室、更衣室、非常口、実習生の控え室等） ⑦介護の方針、日課、週間・年間スケジュール、勤務形態、ケースカンファレンスや介護職員研修など
	利用者の生活の様子から、生活環境としての施設について考える。	①利用者の日課にかかわり、利用者にとって生活しやすい環境とはどのようなものなのかを考える。 ②利用者の居宅環境について知る。 ・居住環境の整備 ・プライバシー空間の設営 ・衣類・寝具の衛生管理と掃除 ・寝床の整備

# 体験実習 2

## 実習施設・事業等（I）

### 1. 実習目的

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術について学ぶ。

### 2. 実習目標

- (1) 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践について学ぶ。
- (2) 多職種協働の実践について学ぶ。
- (3) 基本的な介護技術について学ぶ。

### 3. 学習内容および学習方法

目	学習内容	学習方法
利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践について学ぶ	自己理解を深める 他者理解を深める 生活支援を通し、コミュニケーション技術を学ぶ	①自己覚知し、自分自身の長所・短所を理解する。  ①利用者の性格特性 ②利用者が日頃大切に思っていること、宗教など ③趣味や楽しみになっていること ④利用者の家族との関係 ⑤他の入居者との関係 ⑥行事への参加のしかた ⑦施設の生活についての思い ⑧利用者が現在望んでいること  ①実際の介護場面において、どのようにコミュニケーションが図られているのかを知る。 ②言語的コミュニケーションについて理解する。 ③非言語的コミュニケーションについて理解する。
多職種協働の実践について学ぶ	他職種の役割を知り、医療・福祉の連携方法を学ぶ。	①生活相談員（生活指導員、児童指導員）の業務を見学し、生活相談員（生活指導員、児童指導員）の役割と業務の実際を知る。 ②看護師の業務を見学し、看護師の役割と業務の実際を知る。 ③栄養士の業務を見学し、栄養士の役割と業務の実際を知る。 ④理学療法士（機能訓練指導員）の業務を見学し、理学療法士（機能訓練指導員）の役割と業務の実際を知る。 ⑤介護支援専門員の業務を見学し、介護保険における施設介護サービスの提供、管理の実際を知る。 ⑥機会があったらケースカンファレンスを見学する。 ・参加メンバー、カンファレンスの内容、本人・家族の希望に対する計画 ⑦よりよい介護を行うために他の専門職との協働意識を持ち、実践面での役割分担を明確にする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基本的な介護技術について学ぶ</p>	<p>介護職員（ケアワーカー他）とともに日常生活援助を体験する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体的生活援助</li> <li>2. 文化的生活援助</li> <li>3. 社会的な生活援助</li> <li>4. 生活環境整備/生活経営・管理</li> <li>5. 健康観察・保持</li> <li>6. 相談・助言</li> <li>7. 応急処置／終末期ケア</li> <li>8. 管理・運営</li> </ol>	<p>①施設の日課に添った介護職員（ケアワーカー他）の日常生活援助を通し、できるところは積極的に申し出て経験させてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に利用者を移動するときは、安全確保のため必ず介護職員（ケアワーカー他）と共に行う。</li> </ul> <p>②体験の後には、指導者から助言を受け、自分の援助過程を分析して改善点を見出し、「実習日誌」に記録する。実習日誌は実習指導者に提出する。</p> <p>★以下の諸点を意識して、施設の職員とかわる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初日は自己紹介のために、実習目標や自分の課題の要点をまとめ、言葉で表現できるようにしておく。</li> <li>・質問されたときには、相手の目を見てすぐに返答する。答えられないならば、その理由をはっきり述べる。</li> <li>・質問があれば、その場の状況を考慮し相手の都合を伺う。質問の用件は手短かに述べる。積極的に質問し、わかったことは復唱して相手の人に返す。</li> <li>・感謝の気持は、必ず言葉と表情で表現する。</li> <li>・明るい表情で、わかりやすい表現を用いる。</li> </ul>
---	--	---

# 介護実習第2段階

## 実習施設・事業等（Ⅱ）

### 1. 実習目的

生活障害をもっている高齢者や障害者への生活援助の方法について学ぶ。

### 2. 実習目標

- (1) 施設で行われている居宅介護サービス事業を学ぶ。
- (2) 利用者の個別のニーズや障害のレベルに応じた援助の方法を学ぶ。
- (3) 利用者のQOLを高める関わり方を理解する。
- (4) 医務・看護業務の概要を理解し、職種間の連携の方法を学ぶ。

### 3. 学習内容および学習方法

目	学習内容	学習方法
居宅介護サービス事業を学ぶ 施設で行われている	施設で行われている居宅介護サービスを学ぶ。  施設で行われている居宅介護サービスを見学または体験学習する。	①施設パンフレットや事前オリエンテーションで、現在行われている居宅介護サービスについて調べる（サービスの種類・内容など）。 ②事前オリエンテーションまたは見学により、どのような人が利用しているか知る。  ①機会があれば施設で行われている居宅介護サービスを見学または体験学習し、ショートステイ、デイサービス、入浴サービス、食事サービス、在宅支援センター、ホームヘルパーの派遣などの実際を学ぶ。
利用者の個別のニーズや障害のレベルに応じた援助の方法を学ぶ	利用者の個別の特性を学ぶ。  障害のレベルに応じた援助方法を学ぶ。  障害に応じた福祉機器の活用方法を学ぶ。	①利用者の全体像を把握する。 ・利用者の性別および発達段階 ・生活（育）過程 ・障害の種類・程度 ・一日の過ごし方 ・現在行われている援助  ①個々の利用者の身体状況に応じた援助の工夫を指導者から学ぶ。 ・介護を始める前の観察と準備 ・適切な声かけや援助行為の説明の仕方 ・安全、安楽への配慮 ・自立を促す援助の方法 ・介護者のボディメカニクス ②学内で学んだ基本技術をふまえて、指導者に助言を頂きながら実際にいろいろな利用者の介護を実践する。 ③機会があったら、終末時の介護を見学する。 ・利用者、家族への援助、お見送りの仕方  ①利用者の自立や介護負担の軽減のために使用されている福祉機器について説明を受け、その活用方法を理解する。 ・各種車椅子、リフター、特殊入浴機器

<p>利用者のQOLを高める関わり方を理解する</p>	<p>施設で行われている個々の利用者のQOLを高める援助方法を学ぶ。</p> <p>施設における事故防止と安全対策について学ぶ。</p>	<p>①個人の好みや今までの生活習慣をどのように取り入れているか知る。          ②家族・友人との交流や社会参加等の援助がどのようになされているか知る。          ・面会、外出など          ③個人の生きがいや楽しみの援助がどのようになされているか知る。          ・趣味、クラブ活動、行事など</p> <p>①利用者の安全を守るためにどんな配慮がなされているか知る。          ・施設設備          ・福祉機器          ・その他の工夫          ②施設にある防災設備（非常口、消火器、非常ベル）および操作法を確認する。          ③災害時における利用者の避難誘導の方法について学ぶ。          ④防災訓練の機会があれば参加させてもらい、利用者の移動能力にあわせた避難誘導方法を学ぶ。</p>
<p>医務・看護業務の概要を理解し職種間の連携の方法を学ぶ</p>	<p>医務、看護業務の概要を理解する。</p> <p>入所者の健康管理の方法や介護職との連携の方法を学ぶ。</p> <p>介護の機能の範囲について考え、介護の専門職としての責任と役割を学ぶ。</p>	<p>①医務、看護、理学療法業務を見学し、それぞれの施設内での役割を知る。          ・医師の診察（回診、往診、受診）の見学          ・服薬管理の見学          ・医療処置の見学          ・機能訓練の見学</p> <p>①利用者の身体に影響があると思われる行動の前後のバイタルサイン測定を見学する。機会があれば経験する。          ②感染症の対処や予防方法について理解する。          ③医務・看護職員と介護職員との連携の必要性を理解し、その方法を知る。          ④申し送りやケースカンファレンス、連絡会議等に参加し、介護職と他職種との連携が利用者のよりよい援助にどうつながっているかを考えながら学ぶ。</p> <p>①介護職の機能の範囲について考え、組織の一員としての責任とチームケアの重要性を自覚する。          ②介護活動の主体は利用者であることを自覚し、常に利用者の立場に立って考えるように努める。          ③自らの介護実践に責任を持つ。          ④プロセスレコードを通じて、専門職としての自己を客観視し、解決すべき課題を明確にするとともに調整する能力を高める。          ・状況の事実を客観的に分析する          ・自己の不足の部分を見出し、修正する          ・自己の課題を自覚し、専門職としての態度・行動がとれるように努力する          ⑤介護職が行うひとつひとつの介護行為が利用者にとってどのような意義があるかを考え、介護職が果たす役割を学ぶ。</p>

# 介護実習第3段階

## 実習施設・事業等（Ⅱ）

### 1. 実習目的

- (1) 利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。
- (2) 施設運営のプログラムに参加し、サービス全般について理解すると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学ぶ。また、他職種の役割を知り、介護チームの一員として業務を遂行する能力を養う。

### 2. 実習目標

- (1) 施設運営プログラムに参加し、施設の役割を理解する。
- (2) 介護全般について理解し、チームの一員としての介護業務を遂行する。
- (3) 個別の介護計画を立案し、計画に基づいて実施・評価を行うことができるようにする。
- (4) 利用者の尊厳・プライバシーなどについて学ぶ。

### 3. 学習内容および学習方法

目	学習内容	学習方法
施設運営プログラムに参加し、施設の役割を理解する	施設の組織、運営、事業の概要を理解する。	①施設パンフレットやオリエンテーションにより、施設の目的、運営方針、組織構成、施設サービス計画を把握する。
	他職種の役割を知り、医療・福祉の連携方法を学ぶ。	①生活相談員（生活指導員、児童指導員）の業務を見学し、生活相談員（生活指導員、児童指導員）の役割と業務の実際を知る。 ②看護師の業務を見学し、看護師の役割と業務の実際を知る。 ③栄養士の業務を見学し、栄養士の役割と業務の実際を知る。 ④理学療法士（機能訓練指導員）の業務を見学し、理学療法士（機能訓練指導員）の役割と業務の実際を知る。 ⑤介護支援専門員の業務を見学し、介護保険における施設介護サービスの提供、管理の実際を知る。 ⑥機会があったらケースカンファレンスを見学する。 ・参加メンバー、カンファレンスの内容、本人・家族の希望に対する計画 ⑦よりよい介護を行うために他の専門職との協働意識を持ち、実践面での役割分担を明確にする。
	利用者の入所・退所時における準備、関連機関との連携のとり方を学ぶ。	①機会があれば、利用者の入所受け入れ準備や退所準備を見学させていただく。 (短期入所者でも可) <入所受け入れ時の準備> ・面接調査の内容と方法 ・関連機関（施設、行政、居宅介護事業所など）からの連絡 ・介護計画 <退所時の準備> ・介護相談の内容と方法 ・関連機関（施設、行政、居宅介護事業所など）への連絡
施設の生活を充実させるためのプログラムの立て方や運営方法を学ぶ。	①施設でクラブ活動やレクリエーション、行事等がどのように計画されているか知る。 ・企画担当者、企画内容、運営方法 ②指導者の助言のもとに、レクリエーションの企画・準備・進行を体験する。 ・目的、対象者、必要物品、進行計画、利用者の反応	

介護全般について理解し、チームの一員としての介護業務を遂行する	<p>早朝・就寝時・夜間帯・休日の介護を体験し、利用者の生活を総合的に理解するとともに、24時間の介護活動を学ぶ。</p> <p>チームケアに必要な申し送り、記録、チームワークの大切さ、チームの一員としてのあり方を学ぶ。</p> <p>ケアワーカー長（またはリーダー）の役割を学ぶ。</p>	<p>①早出・遅出・夜勤・休日勤務を体験し、昼間と違う利用者との関わり方を知り、各勤務体制に特殊な介護を学ぶ。</p> <p>②夜間・緊急時の対応の仕方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の避難誘導</li> <li>・医療関係者との連携</li> </ul> <p>①チームメンバーの一員であることを自覚して実際の介護業務を行う。ケアワーカーの指示・報告の系列を把握し、日常生活援助全般を行う。</p> <p>②ケアワーカーのリーダーへの報告、記録を経験する。</p> <p>③チームメンバーの中での自己の役割を自覚し、申し送りに参加する。</p> <p>④チームケアが円滑に展開できるように、チームの一員としてのあり方について考える。</p> <p>①ケアワーカーのリーダーの業務を見学し、ケアワーカーのリーダーの役割と業務の実際を学ぶ。</p> <p>②次の勤務者への申し送り（受け持ち利用者の申し送り）を体験し、ケアを継続していく大切さを学ぶ。</p>
---------------------------------	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">個別の介護計画を立案し、計画に基づいて実施・評価を行うことができるようにする</p>	<p>受け持ち利用者の情報を収集し個別ニーズや介護上の問題を考える。</p> <p>個別ニーズの充足・介護上の問題の解決がはかれるように介護計画を立案する。</p>	<p>①利用者の人生観・価値観を尊重し、その人らしい生活を支援する方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの理解に努め、個人の持てる力を活用した援助の方法を理解する。(障害のレベルに応じた援助、残存機能を活用した援助、自立を促す援助)</li> <li>・個別のニーズを受け止めその人の好み・関心を大切にして援助する。</li> <li>・利用者自らがつくっている生活リズムを尊重する。</li> </ul> <p>②利用者の個人記録から身体的・精神的・社会的な特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢、入所日、入所理由</li> <li>・入所までの生活歴(出身地、教育歴、職業歴、家族関係)</li> <li>・入所から現在までの経過</li> <li>・障害の種類と程度</li> <li>・既往歴と治療状況</li> <li>・健康状態(バイタルサイン、身体症状、要介護度、ADL、IADL)</li> </ul> <p>③利用者の現在の生活習慣、生活動作の特徴を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の過ごし方</li> <li>・日常生活動作を細かく観察する(食事、排泄、清潔、移動、休息)</li> </ul> <p>④利用者の精神面や社会面の特徴を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記憶力(痴呆の有無や程度)</li> <li>・性格特性</li> <li>・趣味や楽しみ、生きがい</li> <li>・周囲の環境(居室、家族・他の入居者・職員との関係)</li> </ul> <p>⑤実習時間帯で知ることのできない情報については積極的に職員に質問したり、施設の記録を見せていただいて収集する。</p> <p>⑥収集した情報を指定の用紙にまとめ、利用者が望んでいることや介護上の問題について総合的に考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活を送る上で問題となること</li> <li>・自立した生活を送る上で問題となること</li> <li>・生活意欲を保つために問題となること</li> </ul> <p>⑦指導者の助言を受けながら利用者の介護上の問題を整理する。</p> <p>①解決すべき介護上の問題から介護目標を立てる。 (実習期間中に到達可能な目標とする)</p> <p>②立案した介護目標を達成できるように、介護計画を立てる。(目標を達成するための援助計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それ以上悪化しないようにするには何をしていくか</li> <li>・その人らしく生き生きと生活できるためにはどのように工夫していくか</li> <li>・計画は5W1Hで具体的に</li> </ul>
---	--	--

<p>実施・評価を行うことができるようにする</p> <p>個別の介護計画を立案し、計画に基づいて</p>	<p>介護計画に基づいて介護を実施する。</p> <p>実施した援助を次に生かせるように評価・修正する。</p>	<p>①指導者に確認を得て立案した計画に沿って介護を実施する。(計画の一部でもできることを実施)</p> <p>②実施した結果を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の反応</li> <li>・問題解決の過程</li> </ul> <p>①自分が行った援助を振り返り、計画を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定は適していたか</li> <li>・計画は具体的か</li> <li>・利用者に適した方法が選択されていたか</li> </ul> <p>②①の考察をもとに計画を修正する。</p>
<p>利用者の尊厳・プライバシーなどに</p>	<p>実践を通し、利用者の尊厳・プライバシーの保護について理解する。</p>	<p>①環境面で、どのような配慮がなされているかを理解する。</p> <p>②実際の介護場面で、どのような配慮がなされているのかを理解する。</p>

# 体験実習 3

## 実習施設・事業等（I）

### 1. 実習目的

多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

### 2. 実習目標

多様な介護サービスに関する理解を深める。

### 3. 学習内容および学習方法

目	学習内容	学習方法
多様な介護サービスに関する理解を深める	実習施設の概要を理解する。  利用者の生活の様子から、生活環境としての施設について考える。	①施設の沿革、設立年月日、設置主体 ②運営方針 ③施設長名、実習指導者名 ④職員構成 ⑤利用者の特徴（年齢構成、性別、入所理由、入所期間、社会的背景、障害の種類・・・） ⑥建物の構造（居室、食堂、浴室、便所、医務室、事務室、更衣室、非常口、実習生の控え室等） ⑦介護の方針、日課、週間・年間スケジュール、勤務形態、ケースカンファレンスや介護職員研修など  ①利用者の日課にかかわり、利用者にとって生活しやすい環境とはどのようなものなのかを考える。 ②利用者の居宅環境について知る。 ・居住環境の整備 ・プライバシー空間の設営 ・衣類・寝具の衛生管理と掃除 ・寝床の整備

# 居宅介護実習

実習施設・事業等 I (体験実習 1～3 で行う)

## 1. 実習目的

自宅で生活する高齢者とその家族の生活実態を把握し、専門的知識や技術を用いて、そのニーズに対応した介護サービスを提供する方法や実際を学ぶ。

## 2. 実習目標

- (1) 在宅生活をする高齢者の生活状況を理解する。
- (2) 介護保険制度の中の居宅介護サービスについて学ぶ。
- (3) 居宅介護での介護福祉士のあり方を理解する。

## 3. 学習内容および学習方法

見	学習内容	学習方法
在宅生活をする高齢者の生活状況を理解する	同行訪問を通し、在宅生活をする利用者の生活状況を理解する。	①オリエンテーションや個人記録から利用者の要介護度や現在の介護状況を把握する。 ・利用者の性別および発達段階 ・障害の種類・程度、要介護度と介護ニーズ (介護サービス申請) ・家族形態と主な介護者 ・一日の過ごし方 ②現在行われている介護内容を把握する。 (介護内容と方法、時間、場所、介護者)
	同行訪問をさせていただいた利用者と家族 (介護者) の関係を知り、介護上の問題を理解する。	①介護者の状態を把握する。 ・利用者との関係 ・介護者の理解力・介護知識・介護力の程度 ・介護者の健康状態・体力 ・介護者の介護意欲および他の家族の協力状態 ②オリエンテーション、個人記録から現在の介護上の問題を把握する。 ③介護支援計画で取り上げられている問題と現在行われている介護サービスから、利用者の介護ニーズが満たされているか考えてみる。

職	学習内容	学習方法
在宅生活をする高齢者の生活状況を理解する	<p>同行訪問を通し、在宅生活をする利用者の生活状況を理解する。</p> <p>同行訪問をさせていただいた利用者と家族（介護者）の関係を知り、介護上の問題を理解する。</p>	<p>①オリエンテーションや個人記録から利用者の要介護度や現在の介護状況を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の性別および発達段階</li> <li>・障害の種類・程度、要介護度と介護ニーズ（介護サービス申請）</li> <li>・家族形態と主な介護者</li> <li>・1日の過ごし方</li> </ul> <p>②現在行われている介護内容を把握する。 （介護内容と方法、時間、場所、介護者）</p> <p>①介護者の状態を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との関係</li> <li>・介護者の理解力・介護知識・介護力の程度</li> <li>・介護者の健康状態・体力</li> <li>・介護者の介護意欲および他の家族の協力状態</li> </ul> <p>②オリエンテーション、個人記録から現在の介護上の問題を把握する。</p> <p>③介護支援計画で取り上げられている問題と現在行われている介護サービスから、利用者の介護ニーズが満たされているか考えてみる。</p>
介護保険制度の中の居宅介護サービスについて学ぶ	<p>居宅介護事業の概要を理解する。</p> <p>居宅介護サービス提供の方法を理解する。</p> <p>居宅介護サービス管理の方法を理解する。</p>	<p>①自己学習により居宅介護事業の種類と役割を調べる。</p> <p>②実習施設を通し、在宅介護支援センター、ホームヘルプサービス事業の概要を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法的な根拠、サービスの内容、職員の種類、業務、配置</li> </ul> <p>①自己学習により居宅介護サービス提供までの流れを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度、被保険者</li> <li>・申請からサービス提供までの流れ</li> <li>・ケアマネジャーの役割</li> </ul> <p>②居宅介護サービス計画によるサービス提供の方法を知る。</p> <p>③快適な生活を送るために必要な社会資源の活用の仕方を学ぶ。</p> <p>①サービス提供の報告がどのようになされているか理解する。 （報告内容、報告時期、報告先）</p> <p>②サービスを提供している各事業所間の連携がどのように行われているか知る。</p> <p>③居宅介護サービス計画の運用方法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス提供のモニタリング</li> <li>・居宅介護サービス計画の評価・修正</li> </ul>

居宅介護での介護福祉士のあり方を理解する	居宅介護の特性を考える。	①施設介護と居宅介護の違いを知る。 ・利用者の特徴、介護の方法
	家族に対する指導・支援の方法を理解する。	①家族の気持を理解する。 ②介護相談・指導の場面を見学し、介護の動機づけの仕方や介護指導の方法を理解する。 ・介護相談の内容 ・介護者の姿勢（関わり方） ・介護意欲が維持・向上できるような関わりの持ち方 ・介護方法についての説明の仕方
	他職種との連携のとり方、および医療との関わり方を学ぶ。	①見学およびオリエンテーションにより、他職種との連携がどのようにとられているか把握する。 ・連携のとり方、他職種との連携が円滑にいくための工夫の仕方 ②機会があれば、受診時の介護を見学する。 ・利用者の準備 ・医療施設内での利用者と医療関係者への対応の仕方 ・受診結果の報告の仕方
	居宅介護における介護福祉士のあり方について考える。	①利用者と介護福祉士の人間関係について把握する。 ②緊急時の対応の仕方を理解する。 ③介護福祉士の業務範囲と責任を明確にする。 ④訪問ヘルパー（サービス提供者）としてのマナーを学ぶ。 ・あいさつ、礼儀作法 ⑤対象を尊重した介護の意味を理解する。 ・利用者・家族の意志の尊重 ・従来生活習慣を尊重 ・家族の介護方法の受容

## 実習の進め方

### <在宅介護支援センターにおける実習>

- ① オリエンテーションにより在宅介護支援センターの概要を理解する。
- ② 在宅介護支援センターで行われている居宅介護サービスの実際を見学する。  
・相談援助（訪問・来所）の見学
- ③ 在宅介護支援センターで行われている居宅介護サービスの実際を見学する。  
・相談援助（訪問・来所）業務の見学
- ④ オリエンテーションにより居宅介護サービス管理の方法を理解する。
- ⑤ 居宅介護での介護福祉士のあり方について考える。

### <ホームヘルプサービス事業所における実習>

- ① オリエンテーションによりホームヘルプサービス事業の概要を理解する。
- ② ホームヘルプサービス事業所で行われている居宅介護サービスの実際を見学する。  
※訪問介護の見学（同行訪問）：家事援助、身体介護、相談・助言
- ③ オリエンテーションにより居宅介護サービス管理の方法を理解する。
- ④ 居宅介護での介護福祉士のあり方について考える。

### <デイサービスセンターにおける実習>

- ① オリエンテーションにより老人デイサービスセンターの概要を理解する。
- ② 施設で行われている居宅介護サービスの実際を見学・体験する。  
・利用者の送迎、入浴サービス、給食サービス、レクリエーション、リハビリテーション
- ③ 利用者の送迎を通して利用者の生活状況を理解する。

- ④ 施設で行われている居宅介護サービスの実際を見学・体験する。
  - ・利用者の送迎、入浴サービス、給食サービス、レクリエーション、リハビリテーション
- ⑤ オリエンテーションにより居宅介護サービス管理の方法を理解する。
- ⑥ 居宅介護での介護福祉士のあり方について考える。

#### <デイケアにおける実習>

- ① オリエンテーションによりデイケアの概要を理解する。
- ② 施設で行われている居宅介護サービスの実際を見学・体験する。
  - ・利用者の送迎、入浴サービス、給食サービス、レクリエーション、リハビリテーション
- ③ 利用者の送迎を通して利用者の生活状況を理解する。
- ④ 施設で行われている居宅介護サービスの実際を見学・体験する。
  - ・利用者の送迎、入浴サービス、給食サービス、レクリエーション、リハビリテーション
- ⑤ オリエンテーションにより居宅介護サービス管理の方法を理解する。
- ⑥ 居宅介護での介護福祉士のあり方について考える。